

すくわくだより

令和7年度 鎌倉保育園 ひまわり組

昨年度より始めました「とうきょうすくわくプログラム」は、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・共同的な探究活動を通じて保育の充実を図ることを目的とした事業です。今年度も鎌倉保育園で事業の実践を行うことにしましたが、ひまわり組では園庭での自然を通して、興味や関心はダンゴムシに向いていたので、取り組んでみたことをおたよりにてお伝えいたします。

1. 春の陽気の中、園庭で元気いっぱい遊ぶひまわりさん。中でもダンゴムシを見つけては触れ合うことを楽しんでいました。そんなある日、手に乗せたダンゴムシを見つめながら「ダンゴムシ飼いたいな、、、」の言葉に同じ気持ちの子も。

2. 飼ってみたいの言葉をクラスみんなに届けると、「育てたい！」と他の子からも声上がり、早速大きな飼育ケースを購入しました。届くまでの毎日は、「まだかな？」と待ち遠しい姿や、友達と「何匹飼う？」「この葉っぱいいね！」と会話が弾んでいました。そして何を食べるかを調べると枯れ葉と言うことを知り、驚いたり、「おいしいのかな？」と味が気になる子も、、、。

3. 飼育ケースが届くと、園庭ではすぐにダンゴムシ探し。プランター裏の枯れ葉の下に知っている子ども達は、一目散にその場所へ向かいました。「いた！」「こっちにも！」と次々に発見していました。飼育ケースの中は大きいダンゴムシ、小さいダンゴムシ、男の子や女の子と何匹ずついるか数えたり、割合なども考えながら入れていました。次は枯れ葉探し。ダンゴムシがいつも過ごしていた場所の枯れ葉を集めては、そーっと飼育ケースの中へ。1枚ずつ向きや重ね方を友達同士で試行錯誤しながら考え、ダンゴムシが隠れやすく過ごしやすいように工夫していました。室内へ飼育ケースを移動し、飼育が始まりました。毎日のぞいては声をかけたり、観察したりとワクワクした気持ちで夢中になっていました。自分たちが園庭に出る時は、飼育ケースも一緒に。古い枯れ葉を捨てて、新鮮な枯れ葉に入れ替えたり、「お友だちだよ！」と新しいダンゴムシを連れてきたりと、毎日のお世話も進んで行動に移し、頑張っていました。





ほく、 だんごむし

4. ある日の読み聞かせで「ほく、だんごむし」の絵本を読みました。そこにはダンゴムシが脱皮を繰り返して大きくなっていくこと、石やコンクリートを食べて甲羅を強くしていくことを知り、焦りを見せた子ども達。「ダンゴムシが元気になっちゃう」と言って、急いで石を集めました。飼育ケースに入れると、「もう大丈夫だよ」と安心するような言葉をかけたり、枯れ葉と同様に石の味が気になる子もいました。きっかけは絵本。そこから気づきがあり、ダンゴムシの命を守るにはどうしたらいいか？などを考えて、主体的にそして協力し合っていました。



5. またある日は別の図鑑でキャベツや人参も食べると知り、給食室から余った野菜をいただいてダンゴムシのご飯に。



6. いつものようにダンゴムシと触れ合っていると、お腹に白いものがいっぱい。よく見て見ると、、、赤ちゃん！！赤ちゃんがいっぱい産まれていたんです。図鑑で赤ちゃんの写真と見比べて「一緒だね」と話したり、かわいい♡の声が溢れ、みんなメロメロでした♡♡♡



7. 暑い夏がやってくると次々と亡くなってしまったダンゴムシ。「なんで？お水もご飯も石もあるのに、、、」と疑問や悲しみが。結局、全員亡くなってしまい、どうするかの話し合いで、「お水して、また元気になったら一緒にあそぶ！！」との声。そこからダンゴムシがまた元気な姿を見せてくれると来る日も来る日も待ちましたが、願いは届かず、、、最後はみんなで元の場所にかえしてお別れをしました。「またね」「忘れないよ」と元気よく声をかけながらお別れをしていましたよ。



最後に、、、
「ダンゴムシ飼ってみたいな」の思いから始まったひまわり組のすくわく。園庭に出るとよく見かける存在の身近なダンゴムシ。身近だったけれどダンゴムシの育て方では、絵本や図鑑を通して知ることが多かったです。その度にどうしたらいいかを子どもたち同士で考えて、行動に移していました。このすくわくを通して主体的に行なっていく上で、言葉にして伝え合う大切さや命の尊さ、思いやりなども経験し、学ぶことができたと思います。

